

市長と語るう地域懇談会 記録

【日時】平成26年11月13日(木)午後6時30分～8時05分
 【会場】布礼別集落センター
 【対象地域】布礼別、富丘、八幡丘
 【出席者】13人

担当部	意見・要望などの要旨	回答の要旨
経済部	<p>人口を増加させるには、経済が伴わなければ結婚はできないし、子どもを複数望むこともできないので、何か光ったものが必要ではないか。富良野に移住してくる人は、夢や希望を持ってやってくる。若い夫婦に指導、協力できる状況づくりが必要ではないか。市民が活発に動きやすいまちづくりが理想。</p>	<p>【市長】富良野の基幹産業は農業と観光、そして環境である。若者を受け入れる状況づくり、安心感をあたえるため、農業担い手センターを設置した。観光は基盤づくり、安定した状況づくりのため、ブランド観光圏に取り組んでいる。こうした状況が、外国人の受入や農業と観光の連携等につながっていく。市内では新規に15店舗ほど開店しており、そのほとんどが市外の人たちである。融資・補助制度を活用できる状況づくりできているからである。若い人が定住し、結婚できる状況づくりが重要となる。また、6次産業化を図る中で、雇用が生まれ、人が来て、定住につながるような、仕組みが必要となる。</p> <p>【経済部長】アグリパートナーの取り組みは、過去より参加する女性は真剣であるが、受入側の農家男性がうまく対応できていない。そのため、男性側に事前に研修を行っている。</p> <p>【商工観光室長】経済力をどうするか、雇用の場をどう確保するか、安定した収入をどう確保するか、通年雇用に向けた取り組みをどうするか。そうした課題を解決するため、通年で観光客が訪れる状況づくりを目指している。そのためには、オール富良野での取り組みが重要となる。</p>
経済部 総務部	<p>定住するためには、生活基盤、経済基盤が大事である。広域を含め、富良野ブランドの統一化が大事ではないか。知名度が上がり、安定供給が図れる。そうした状況づくりが、富良野を支えること</p>	<p>【市長】東山地区のトウモロコシが旬の時期だけ藤田観光で使用されているが、通年で利用してもらえる体制作りが必要である。他の作物も充分可能性があるのではないかと。現在、衛生ゴミの燃</p>

<p>教育委員会 総務部</p>	<p>になるのではないかと。昔、ベベルイ地区で温泉が出るという話があったが、もし、そういう状況があれば利用方法があるのではないかと。富良野ブランドは人がいいと言われる。人間をブランド化していくことも必要ではないかと。</p> <p>電気料の値上がり、燃料費の高騰があるが、市として何か働きかけは行っているのか。また、富良野の中でも少人数学級と40人学級があるが、市としての考え方は。</p>	<p>料化実験を行っており、状況が整えば農家のハウス栽培に活用できると考えている。衛生ゴミの処理に費用が掛かっているが、燃料化できればコスト削減にもつながる地熱利用は、掘るのに費用が掛かる。</p> <p>【教育長】小学校から「英語の話せる富良野っ子」に取り組み、ALT4名を配置、イングリッシュキャンプ、放課後英語教室などを行っている。また、英語に限らず、商工観光課にいる職員を活用し、韓国語や中国語など異文化に触れる機会を設けている。将来、いろいろなことを自分で伝えられることが大事である。</p> <p>【総務部長】地域で活用できる多様なエネルギーの創出が重要である。市では、衛生ゴミの燃料化実験、白鳥川の小水力発電、地下水ヒートポンプなどさまざまな取り組みを行っている。</p> <p>【教育長】学級の人数は、地域の特性の中で生まれた状況であるが。子どもたちの教育環境をどう守るかが重要である。成長過程で社会性を身に付けるためには、大人がどう関わっていくか、地域で育む環境づくり、複数校での協力体制などさまざまな手法が必要と考えている。</p> <p>【市長】農業担い手センターは東山地区をターゲットに行っているが、地域に受け入れ体制がなければならぬ。集落が受け入れる(迎え入れる)状況になっていなければ、人は集まって来ない。</p>
<p>経済部</p>	<p>私は移住者であり、就農して3年目になる。移住を考える上で最低限の生活基盤(買い物、医療等)が必要である。移住したい方に選択肢を広げる取り組みができないか。チャンスを広げたり、多少の失敗を受け入れるなど、懐の深さが行政にも必要ではないか。</p>	<p>【経済部長】チャンスを与えることは大事であるが、農業の場合、ある程度の知識と資金がなければならぬ。農業担い手センターでは、当面は堅実な農業をバックアップする体制で行っていく予定である。</p> <p>【市長】農業後継者がいない農家を企業が引き継ぎ、雇用が生まれ、従業員が就農したい状況が生まれ、農業生産法人に来て</p>

		<p>いた農業研修生が富良野で就農をしたいという状況もある。選択肢の幅を広げる中で、自立できる仕組みを地域と一緒に考えていかなくてはならない。</p>
--	--	---